

損益実績表

自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日

単位：千円

科 目	金 額
交流センター売上	50,746
レストラン売上	27,576
あばかん家売上	27,921
緑彩館売上	93,036
営業売上	13,662
本 店 売 上	20,403
業務委託売上	2,616
【売上高合計】	235,960
【売上原価合計】	110,995
【売上総利益】	124,965
役員報酬	690
給与人件費	69,785
従業員賞与	0
法定福利費	6,127
福利厚生費	774
【固定・人件費計】	77,376
支払報酬	1,076
施設管理委託費	4,377
清掃衛生費	3,818
旅費交通費	43
通信費	1,078
容器包装費	841
交際接待費	162
広告宣伝費	1,332
販売促進費	596
発送配達費	244
租税公課	167
新聞図書費	152
事務用品費	664
備品・消耗品費	3,289
電気光熱費	23,444
修繕費	1,406
車両費	2,342
支払手数料	2,025
賃借料	3,952
保険料	1,047
減価償却費	3,157
寄付金	5
雑費	146
【変動費計】	55,363
【固定費・変動費計】	132,739
【営業利益(損失)】	▲ 7,774
【営業外収益】	382
【営業外費用】	1,162
【経常利益(損失)】	▲ 8,554

営業収入は全事業で233,293千円、収入構成は、物産76.7%（178,826千円）温泉6.4%（14,839千円）・実演13.4%（31,242千円）・カヌーその他3.6%（8,386千円）となりました。

22年度につきましては、第2期指定管理者制度適用の2年目にあたり恒常的な黒字化体質の完成を目的とし、職員に何が不足で、何が必要で、どうすれば良いのか？常に問題意識を持って取り組む姿勢を強調し、目的達成意識の高揚と教育の徹底を強化すべく努力しました。

実演販売部門の販売強化に伴う饅頭の町立病院売店における販売、豆腐の農協販売店における販売、また、レストランの旅行者（農協観光扱いの拡張強化や、タピオカ事業において鯛焼の新商品販売などを行い、外販につきましても不採算販売拠点の見直しを行い日別売上の向上を図りました。

総売上の傾向につきましては、エコカー

交流センター内レストランの直営化や緑彩館本売店の新規開店により増収と利益の確保を目指して営業展開を行いました。

また、アピオス入り餃子や弁当を主とした惣菜・加工品の外部販売店舗の拡大や独居老人および高齢者を対象とした宅配御膳の増販により売上および利益の確保に努めました。

以上の結果、営業収入は全事業合計235,960千円、前年差32,468千円（16.0%増）でした。売上総利益は124,965千円、前年差13,587千円（12.2%増）となりましたが、販売費および一般管理費が132,739千円、前年差23,211千円の増加により、営業損失7,774千円となりました。営業外損失が780千円で、経常損失は8,554千円となりました。

各部門の利用人員、営業収入および収入構成は以下のとおりです。

交流センターの利用人員は前年差9,606人減少の125,575人で、営業収入も前年差4,128千円減収の50,746千円（21.5%）でした。減少の要因として、年度前半は実感の伴

補助金や家電エコポイント縮小による消費意欲の減退、大型競合店舗の開店による顧客の逸走に加え、春先から夏場における好天日数の減少などが相俟って上期を中心に売上げの減少に昨年と同様歯止めが掛からない状況が継続しました。

管理コスト面におきましては、レジシステムの老朽化に伴い新規システム導入を行い、作業の効率化を図りました。また、原油高による光熱費増加分を補うため燃料消費の細かい管理や施設維持管理費、修繕費の自助努力による抑制を行いました。

このようななかでの、業界の回復見通しは昨年来の世界的な不況感と為替相場の影響および、国内の政治情勢の混沌と相俟って、なかなか期待できない厳しい年でしょう。

この様な営業環境に対応すべく、更なる外販の強化や日常営業活動の強化と経費の見直しを行いました結果、年度末におきまして、経常損益で4,076千円の利益を確保しました。

われない好景気感の為に国民の消費意欲の減退や8月の猛暑、更には東日本大震災による消費自粛ムードの大きな影響がありました。今後も、物産品販売の緑彩館の併設を強みに営業展開を図ります。

あばかん家の利用人員は前年差2,222人減少の58,215人で、営業収入も前年差2,256千円減収の27,921千円（11.8%）でした。年度末にレジオネラ属菌が発生し、9日間の営業停止になりました。今後は、毎日の清掃や消毒を強化し、二度と発生しないように細心の注意をもって業務を行います。

緑彩館の利用人員は前年差8,956人減少の104,258人で、営業収入も前年差11,417千円減収の93,036千円（39.5%）でした。減収の要因は緑彩館をはじめ交流センターへの入込客数の減少が大きな原因と考えます。緑彩館出荷協議会と連携を密にし、年間を通して豊富な商品確保に努めます。

レストランは営業収入27,576千円（11.7%）で2,667千円の営業利益を確保できました。今後も地元産品

貸借対照表

平成23年3月31日現在

単位：千円

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金および預金	22,544	買 掛 金	4,156
売 掛 金	2,437	短 期 借 入 金	28,200
棚 卸 資 産	5,773	未 払 金	4,471
貯 蔵 品	987	未 払 法 人 税 等	202
前 払 費 用	1,022	未 払 消 費 税 等	1,953
未 収 入 金	1,022	預 り 金	270
未収還付法人税等	1	生 産 者 預 り 金	4,330
立 替 金	53	【流動負債合計】	43,582
【流動資産合計】	33,839	長 期 借 入 金	24,758
建 物	505	【固定負債合計】	24,758
構 築 物	305		
機 械 ・ 装 置	55	負債の部合計	68,340
車 両 ・ 運 搬 具	478	純 資 産 の 部	
工 具 ・ 器 具 ・ 備 品	2,822	科 目	金 額
建物付属設備	3,014	資 本 金	74,000
【有形固定資産合計】	7,179	【資本金合計】	74,000
電 話 加 入 権	126	利 益 準 備 金	1,500
ソフトウェア	202	【利益準備金合計】	1,500
【無形固定資産合計】	328	積 立 金	1,000
長期前払費用	1,141	【繰越利益剰余金】	▲ 101,351
そ の 他 投 資	1,002	【その他利益剰余金合計】	▲ 100,351
【投 資 合 計】	2,143	【利益剰余金合計】	▲ 98,851
【固定資産合計】	9,650	【株主資本合計】	▲ 24,851
		純資産の部合計	▲ 24,851
資産の部合計	43,489	負債・純資産の合計	43,489

を使った独自メニューの開発および宴会など利用客の拡大を図ります。

営業は惣菜・加工品である餃子や弁当の販売、緑彩館本売店の新規開店および宅配御膳の増販により、営業収入が前年差24,654千円増収の36,

681千円（15.5%）でした。今後も営業収入を伸ばし、営業利益の確保に努めます。

営業収入は全事業で233,293千円、収入構成は、物産76.7%（178,826千円）温泉6.4%（14,839千円）・実演13.4%（31,242千円）・カヌーその他3.6%（8,386千円）となりました。

22年度につきましては、第2期指定管理者制度適用の2年目にあたり恒常的な黒字化体質の完成を目的とし、職員に何が不足で、何が必要で、どうすれば良いのか？常に問題意識を持って取り組む姿勢を強調し、目的達成意識の高揚と教育の徹底を強化すべく努力しました。

実演販売部門の販売強化に伴う饅頭の町立病院売店における販売、豆腐の農協販売店における販売、また、レストランの旅行者（農協観光扱いの拡張強化や、タピオカ事業において鯛焼の新商品販売などを行い、外販につきましても不採算販売拠点の見直しを行い日別売上の向上を図りました。

総売上の傾向につきましては、エコカー

補助金や家電エコポイント縮小による消費意欲の減退、大型競合店舗の開店による顧客の逸走に加え、春先から夏場における好天日数の減少などが相俟って上期を中心に売上げの減少に昨年と同様歯止めが掛からない状況が継続しました。

管理コスト面におきましては、レジシステムの老朽化に伴い新規システム導入を行い、作業の効率化を図りました。また、原油高による光熱費増加分を補うため燃料消費の細かい管理や施設維持管理費、修繕費の自助努力による抑制を行いました。

このようななかでの、業界の回復見通しは昨年来の世界的な不況感と為替相場の影響および、国内の政治情勢の混沌と相俟って、なかなか期待できない厳しい年でしょう。

この様な営業環境に対応すべく、更なる外販の強化や日常営業活動の強化と経費の見直しを行いました結果、年度末におきまして、経常損益で4,076千円の利益を確保しました。

われない好景気感の為に国民の消費意欲の減退や8月の猛暑、更には東日本大震災による消費自粛ムードの大きな影響がありました。今後も、物産品販売の緑彩館の併設を強みに営業展開を図ります。

あばかん家の利用人員は前年差2,222人減少の58,215人で、営業収入も前年差2,256千円減収の27,921千円（11.8%）でした。年度末にレジオネラ属菌が発生し、9日間の営業停止になりました。今後は、毎日の清掃や消毒を強化し、二度と発生しないように細心の注意をもって業務を行います。

緑彩館の利用人員は前年差8,956人減少の104,258人で、営業収入も前年差11,417千円減収の93,036千円（39.5%）でした。減収の要因は緑彩館をはじめ交流センターへの入込客数の減少が大きな原因と考えます。緑彩館出荷協議会と連携を密にし、年間を通して豊富な商品確保に努めます。

レストランは営業収入27,576千円（11.7%）で2,667千円の営業利益を確保できました。今後も地元産品

貸借対照表

平成23年3月31日現在

単位：千円

資 産 の 部		負 債 の 部	
【 流 動 資 産 】	45,350	【 流 動 負 債 】	20,600
現 金	1,326	買 掛 金	1,507
預 金	38,627	未 払 い 金	15,576
売 掛 金	1,103	未 払 法 人 税	371
商 品	370	前 受 金	300
貯 蔵 品	1,379	預 り 金	364
仮 払 金	39	未 払 消 費 税	882
未 収 入 金	2,506	商 品 券	16
【 固 定 資 産 】	21,951	一年内リース債務	1,584
（有形固定資産計）	21,615	【 固 定 負 債 計 】	11,501
建 物	9,261	長期預り保証金	6,110
建物付属設備	734	リ ー ス 債 務	5,391
車 両 運 搬 具	1,815	負 債 合 計	32,101
工 具 器 具 備 品	273		
リ ー ス 資 産	9,532	純 資 産 の 部	
（投資その他の資産）	336	【 株 主 資 本 】	35,775
差 入 保 証 金	300	資 本 金	65,000
リサイクル預託金	36	（ 利 益 剰 余 金 ）	▲ 29,225
【 繰 延 資 産 】	575	その他利益剰余金	▲ 29,225
フランチャイズ加入金	317	繰越利益剰余金	▲ 29,225
下 水 道 負 担 金	258	純 資 産 合 計	35,775
資 産 合 計	67,876	負債・純資産合計	67,876

損益実績表

自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日

単位：千円

全 期		
項 目	実 績	
販売収入	物 産	178,826
	実 演	31,242
	温 泉	14,839
	カヌーその他	8,386
営 業 収 入 計		233,293
売上原価	仕 入 高	149,863
売 上 総 利 益		83,430
固定費	役 員 報 酬	2,350
	給 与 手 当	33,061
	雑 給	1,902
	賞 与	2,488
	そ の 他	
	法定福利費	4,062
	福利厚生費	454
固 定 ・ 人 件 費 計		44,317
変動費	外 注 費	0
	交 通 費	70
	通 信 費	476
	交 際 費	350
	減 価 償 却 費	3,007
	賃 借 料	5,546
	保 険 料	670
	修 繕 費	741
	光 熱 費	17,312
	燃 料 費	409
	消 耗 品	2,859
	保 守 管 理	0
	維 持 管 理	2,297
	事 業 費	0
	事務委託費	0
	研 修 費	0
	会 議 費	0
	寄 付 金	5
	資産償却費	0
	そ の 他	5,732
	雑 費	466
変 動 費 計		39,940
固 定 費 変 動 費 計		84,257
営 業 利 益		▲ 827
営 業 外 収 入		4,904
営 業 外 費 用		1
経 常 利 益		4,076